

評価計画					学校評価の結果・評価・課題・改善案						
中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	短期目標に対する評価指標 (または到達したい状況・状態)	目標値	結果	昨年度 (参考)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案
確かな学力を育む	教職員の授業力向上	教務	互見授業や研究授業、授業力向上に係わる研修に参加する。 生徒による授業評価と改善の検討を行う。	教員の授業改善への取り組みやその意識に対する評価の割合	80%	66.7%	63.6%	B	●学習指導要領の改訂の時期であることや、ICT機器の整備が整ったことも関係して、教員の授業改善意識が高まっている。互見授業期間のノルマで=研究授業1回、参観3回について実施率は8割を超えた。次年度も授業改善の啓発に努める。	B	●ICT機器導入から利用率も増加しているため、年度当初に利用方法についての研修を実施する。 ●校外の研修報告を積極的に取り入れ、授業改善に係わる情報を共有できるような整備していく。
	ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践	教務	瀬摩高校の統一ルールに基づいて授業をし、生徒にとってわかりやすい授業を行う。	全ての授業で統一ルールに基づいた授業が行われていると認識する割合	80%	教員 90.9% 生徒 91.5% 保護者 57.0%	教員 100% 生徒 86.0% 保護者 45.5%	B	●授業実施時の統一ルール定着がうかがえる。次年度も同様にルールの意義をより深く認識できるように、教員への説明、生徒啓発の機会を設けたい。前年度に比べて保護者理解は進んでいると考えるが、十分とは言えない。	A	●統一ルールの実践を継続しつつ、次のステップで何ができるか、何をすべきかを検討する。 ●保護者への情報発信をHP、おたより等を利用して発信していく。
「志」「夢」「未来」を見つめさせる	人権意識・規範意識のさらなる向上	生徒指導	いじめや生活の安全に関する情報を学年会や部活動顧問と連携し、収集の徹底を図る。	生徒アンケートにおいて「『いじめをしない、させない、許さない』を心がけた学校生活を送っている」に対して「A」「B」と回答した割合	100%	95.8%	94.5%	B	●学校生活アンケートからの回答に対して担任の先生方がすみやかに面談等で確認・対応・相談・報告をしていた。	B	●アンケートや面談等をとおして得られた情報で速やかに対処すべきものに対しては特に学校全体で対応できるように今後も協力を求めたい。
		図書 (人権教育)	人権・同和教育HR活動及び、教職員研修を充実させ、人権意識を高め、人権感覚を磨く。	アンケートにおいて「人権・同和教育によって、人権意識・感覚が高め、磨けた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 80.0% 生徒 90.3% 保護者 67.6%	教員 70.4% 生徒 91.0% 保護者 62.9%	B	●昨年度並の数値が出ており、人権・同和教育HR活動をはじめとした取組が全体としては前進・定着していると思われる。 ●保護者の数値は、昨年より微増しているのだが、他の数値に比べると低いのは、「たより」の発行などによる情報発信・啓発が不足しているからと思われる。	B	●生徒の実態に即したHR活動をめざして、準備・共通理解の時間のいっそうの確保と充実が必要である。 ●「人権同和教育だより」の発行により、HR活動の取組等を積極的かつタイムリーに情報発信・啓発していくことが求められる。
	体験的な教育活動への積極的参加	生徒指導	生徒主体で達成感が持てる部活動や生徒会活動を実施する。	生徒アンケートにおいて「諸活動において達成感や充実感を味わっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	83.3%	84.3%	A	●生徒会担当を中心に生徒会行事をとおして生徒たちの成長を促すことがある程度できたと思われる。	A	●新年度になっても同様以上のことができるように良かった点、改良すべき点を整理しておきたい。
	キャリア教育の充実	進路指導	社会的・職業的自立に必要な知識の習得と態度の育成を支援する。	生徒・保護者アンケートにおいて、「生徒の自立と進路実現に向けての指導・支援に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	生徒 87.0% 保護者 80.9%	生徒 89.8% 保護者 84.3%	A	●インターンシップなどのキャリア教育に対して、目標値に達し、一定の成果は得られた。紙媒体やHPを活用しての広報が不十分であったため、保護者の回答(80.9%)が生徒の回答(87.0%)まで至らなかった。	A	●キャリア教育の一環で生徒が真剣に、また生き生きと取り組んでいる様子を紙媒体での配付やHPに掲載して、生徒の一層の自信と保護者からの信頼感の向上へとつなげていく。
	個々の生徒のニーズに合った支援の充実	保健 (特別支援)	特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会を定期または即時的に開催し、情報の共有と教職員間の連携を図る。外部支援機関との連携も積極的に行う。	教員アンケートにおいて「特別支援や教育相談の機能を十分に果たしている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	96.9%	97.1%	A	●特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会等の会議は定期的または要請に応じて実施できた。継続的な情報の共有という点では2回目、3回目の会の実施には至らなかった。	A	●それぞれの会の到達目標を定めて効率のよい会を実施するように努めているが、さらにこのことを意識して取り組む。 ●特別支援教育推進委員会、ケース会、カウンセリング委員会等の会議の報告を職員会議、職員朝礼等で行う。
	図書館活用の充実	図書	新聞学習や読書感想文などを契機に、図書館を活用する機会をつくる。 授業や課題研究・総合的な学習の時間等をはじめとする図書館の利用度を高める。	教員・生徒のアンケートにおいて「図書館を利用することができた」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 58.8% 生徒 45.0%	教員 44.1% 生徒 48.9%	C	●例年のように、昼休みや放課後、試験勉強等も含めて図書館にくる生徒の数は一定数いるが、すべての生徒が利用しているまでにはいっていない。	C	●全校生徒を対象とした図書館だよりなどの広報物やNSファイルの実施を充実させて、生徒の活字離れに少しでも歯止めがかかるように努める。 ●図書委員会が主催する文化祭展示や図書イベント、店頭選書などの活動を充実させる。 ●図書委員会や教職員を通じて、お勧めの本などの紹介をする。 ●新刊案内の掲示・展示やテーマ展示の機会を増やし、図書館への関心を高める。 ●除籍した図書や期限切れの雑誌などを、生徒・教職員に譲渡する。
保護者や地域と共に創る学校	PTA活動の充実 (生徒も大人も楽しめる文化祭事業の計画・実施)	総務	PTA評議員会で企画内容を決定し、保護者を巻き込んだ形を目指す。	教員・生徒アンケートにおいて「文化祭のPTA事業は楽しめるものだったか？」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 100% 生徒 96.2%		A	●今年度は昨年度まで実施している休眠品フリーマーケットに加え食品バザー(焼き鳥)を企画・実施した。PTA三役をはじめ評議員の多くが関わり活気があり充実感の残るものとなった。	A	●次年度の文化祭でも同程度のPTA事業を計画したい。
	中高連携認識の向上	教務	担当部署からの情報発信を行う。	情報提供された資料を読み、現状を認識したとする教員の割合	80%	56.7%	65.6%	C	●入学時、中学校からの情報提供を得て、生徒理解に効果があったと考える。中高連絡会も適切に機能していた。さまざまな形での連携は構築されているが、総合的な情報発信に至らず、実感として認識されにくかった。	C	●「中高連携」に係る取り組みそのものの情報を集約し、全体として何を行っているかを明らかにする。 ●中学校説明会でのプレゼン資料の改訂、各分掌や系列からの情報を集め中学校側に正しい情報を伝えていく。
	学校関係者への効果的な情報発信	教務	効果的に情報発信を行い、現況の周知に努める。	HPの情報掲載数：月平均20回以上	100%	15回	11回	C	●特定の教員、特定の部活動のお知らせに偏った。情報発信の啓発に努め、年間を通じて更新できるようにする。	B	●年度初めのホームページ担当の説明会の資料を全教員に配布する。 ●部顧問会議等で記事掲載の雛形を提示するなど、記事を出しやすい工夫をする。
			HPのアクセス数：月平均3500回以上	100%	2752回	2273回	C	●「お知らせ」の更新が多いことで、閲覧時間が増えている。強化月間(校長より)の効果が大きかった。3年推移は2045回⇒2273回⇒2752回。MAX3800回(7月)年度当初の更新にも力を入れる。HP掲載を促す声かけをする。	B	●部活動に限らず、分掌や学年部などの取り組みなどについても、あらたなコンテンツの開拓を検討する。 ●気軽に掲載しやすいシステムを整備していく。	

評価計画					学校評価の結果・評価・課題・改善案							
中期目標	短期目標 (今年度重点目標)	主分掌	具体的な取り組み事項	短期目標に対する評価指標 (または到達したい状況・状態)	目標値	結果	昨年度 (参考)	校内 評価	反省及び次年度への課題等	学校 関係者 評価	改善案	
効率的で安心・安全な学校づくり	安全で整備された学習環境づくり	保健	生徒保健委員による学校環境美化のための取り組み(掃除の放送、掃除用具の整理、補充など)を実施する。	教員・生徒のアンケートにおいて「学校の環境美化に対する意識が高まっている」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 75.8% 生徒 85.5%	教員 81.8% 生徒 81.3%	B	●生徒保健委員は役割を意識して活動に取り組めた。一般の生徒の自己評価と実際の取り組みには開きがあると感じる。不要なゴミの持ち込みや掃除への取り組み方など、もう一度考え対策を講じる必要がある。	B	●生徒保健委員会の活動として各クラスのゴミ箱点検を行い、不要なゴミの持ち込みについての注意喚起を行う。 ●掃除についても生徒保健委員会が全校生徒に集会等で呼びかけをして生徒が主体的に取り組めるようにしていく。	
	寮内での基本的な生活習慣の実践	舎務	安心して楽しく寮生活を過ごせるために、寮消灯時間等の規律時間を守らせる。	教員アンケートにおいて「寮の規律、時間を守らせることができた」に対して「A」「B」と回答した割合80%以上	80%	96.2%		A	●欠食表・帰省届等を期限までに早めに提出させる。	A	●宿直の先生が欠食表等書いて無い生徒に毎回細かく指導する。	
	丁寧な来客対応・適切な予算執行	事務	丁寧な来客対応、電話対応に努める。  教職員と連携し施設・設備の充実を図る。	来校時や電話対応に満足している割合  効率的な予算執行だと感じている割合	90%	89.0%	92.0%	A	●来訪者、電話ともに丁寧な対応ができたと思うが、できるだけ相手を待たせない対応も必要と考える。	A	●授業、休暇など教職員の動向を把握することで、スムーズな対応を図りたい。	
総合学科の魅力UP	多くの中学生に参加してもらうためのオープンスクールの工夫・改善	総務	系列によってプレ遼摩高フェアを計画してもらったり、遼摩高バッグのプレゼントによる遼摩高PRなどを行う。	2回のオープンスクールの延べ参加人数240人以上	100%	第1回 119 第2回 87 合計 206 到達度 85.8%		B	●過去の実績から参加者の50%が入学すると予測し目標人数を240人とした。目標には届かなかったが昨年度を13人上回った。2回目は準備していたPR用の遼摩高バッグの配布を忘れてしまった。プレ遼摩高フェアと位置づけての実施依頼については動きかけが弱かったため、次年度新体制で動きかけの方法を考える。	B	●次年度は1回目と2回目の期間が短くなるため2回目の参加者数が減少することが予測されるので目標人数を200人に設定する。9月初めには1回目参加のお礼を兼ね当日の様子を掲載したダイジェスト版を中学校宛てに配布し、2回目の参加者数の維持を図りたい。プレゼントするグッズについては実施要項に掲載しミスを防ぐ。	
	遼摩高フェアの一体的な運営	系列	ファイブスターカンパニーが名実ともに生徒主体の組織となり、3年生がPDCAサイクルを通して成長する。	教員・生徒アンケートにおいて「ファイブスターカンパニーが生徒主体で運営され、遼摩高フェアのPDCAサイクルを通して3年生は成長したか？」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 91.2% 生徒 91.9%		A	●多くの課題を抱えてきたフェアを今年度は冬のみ1回開催とし、生徒の主体的運営と全教員による指導体制の整備を最優先に計画を見直した。これらに対する成果は得られたと考えるが、依然多くの課題があり、生徒、教員、保護者、来場者の意見も踏まえて次年度の体制・計画を見直す必要がある。	A	●時期、予算、全学年体制、一部業務の外部委託、年間指導計画など山積する課題に優先順位をつけて着手する。 ●遼摩高校3年間のキャリア教育の集大成を目指し、学習成果と地域とを結びつける場としてフェアを位置づけ、各学年の学習目標を設定する。	
	学年会による指導の充実 3年次：進路実現(社会人への準備)	各学年会	1年	面談などを通して、生徒一人ひとりの関心や適性を把握し、個別に応じた指導を行う。進路にかかわる意識をもたせ、適切な系列選択ができるよう支援する。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 70.4% 生徒 92.2% 保護者 82.2%	教員 96.4% 生徒 95.1% 保護者 91.5%	B	●生徒や保護者からの回答は概ね良いものであったが、教員からの回答が低かった。個々に問題を抱える生徒が多く、保護者や関係機関と連絡を密に取りながら対応をしてきた。昨年に比べ、面談に費やす時間が少なかったところは反省している。まだ幼いところがあるので、引き続き指導をしていく。また、系列選択については、前期だけでは短かったことの指摘と考える。来年度は三学期制となり、かつ「産業社会と人間」が通年実施されることから、時間的な余裕をもって選択が可能になると考える。	B	
			2年	生徒一人ひとりの理解を深め、個に応じた指導を行う。進路意識の醸成を図り、将来的なビジョンに基づいた学校生活を送らせる。	教員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 91.7% 生徒 89.0% 保護者 81.1%	教員 95.7% 生徒 91.7% 保護者 71.2%	A	●担任の先生を中心に、生徒との面談を定期的実施し、生徒の実態把握に努め、個別に具体的な支援をすることができた。また、保健部を中心に学年会を超えた多くの先生方からサポートをいただき、生徒への支援と指導に活かすことができた。 ●生徒、保護者からの回答はともに80%を越え当初の目標を達成することができた。学校での生徒の様子が伝わるよう、定期的な学年便りやクラス便りの発行、HPの活用が必要であるとする。	A	
			3年	「凡事徹底」(「時を守り、場を清め、礼を正す」)の指導を行う。	教職員・生徒・保護者のアンケートにおいて「学年会による指導に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	教員 96.6% 生徒 87.8% 保護者 81.3%	教員 96.0% 生徒 82.4% 保護者 83.9%	A	●担任の先生を中心に、生徒との面談や、また保護者との連携により希望する生徒は全て進路決定を果たすことができた。 ●今後も「三方よし」の考え方で進路指導を充実させていく。 ●概ね高い評価をいただいたが、保護者からの評価は昨年を下回る結果となった。近年の傾向からしてもHPやFacebookで学年会の活動についても積極的に情報発信をしていく必要がある。	A	
遼摩高校満足度の向上		教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	生徒アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	80%	77.6% ○内は上から1年(80.3%) (72.3%) (79.3%)	84.2% ○内は上から1年(83.1%) (88.1%) (81.6%)	B	●昨年度は全体の満足度が約84%ですべての学年で80%以上の生徒が満足している結果であったが今年度は、1年が80%を超えたものの2、3年では80%を切り、特に2年では約72%という結果となった。つまり、全体で約2割強の生徒が学校生活に満足していないことになる。 ●その要因として、何らかの問題や悩みを抱えている生徒が昨年度より多くいるのではないかと思われる。 ●充実した学校生活を送っていると思える生徒が大半を占める中、全体だけでなく、悩みを抱える生徒に寄り添える体制を一層強化していく必要がある。	B	●魅力ある学校とは、生徒自身が明るく夢と希望を持って活動する活気あふれる学校である。 ●そのためには、安心、安全に学校生活を送ることが大前提である。いじめやSNSなどの生徒間トラブルや、不登校傾向にならないようにするための対策や早期対応に一層強化していくと共に、個別面談等で、個々の抱える問題にいち早く気づき、寄り添う指導体制をより強化していく。 ●一方で生徒の主体性・自主性を強化するために、生徒主体の会である「遼摩高校を考える会」の充実を図り、生徒の意見を反映した魅力化に取り組んで行くと共に、一層地域連携を進め、魅力化の推進及び発信を行う。 ●また、基礎学力の定着、基本的な生活習慣の徹底を強化し、夢の実現に向けて、充実した学校生活を送れるよう指導体制を充実させていく。		